

外部評価

| 令和4年度 有馬小学校 外部評価報告書 | |
|--|--------|
| 評価委員：中野耕佑（委員長）、宮崎弘次（副委員長）、矢川春文委員、深山健太郎委員、中多宏之委員、坂野泰士委員、森功次委員、宇多清二委員、吉岡輝元委員、鈴木一也委員 | |
| 報告書作成者：鈴木一也委員 | |
| 評価時期 | 令和3年2月 |
| 1 重点目標の評価 | |
| 【重点目標1について】 | |
| ・本校は、タブレット端末の活用は進んでいる方だと思うが、アンケートの結果を見ると保護者からは、まだまだ物足りないようである。保護者からは「十分な活用がなされていない」との回答が30%、教員は、「十分活用している」との回答100%。意識に乖離が見られるので、学校公開では、必ずタブレット端末を活用した授業を見せる等、学校の取組をきちんと伝える工夫が今後、必要である。 | |
| ・1つではない色々な学び方があるということを教えていかなければいけないが、「学び方」についてはまだまだ課題が残る。 | |
| 【重点目標2について】 | |
| ・本校のいじめに対する考え方や取組等がよく分かった1年だった。引き続き、情操教育をしっかりとやってほしい。 | |
| ・いじめに関しては、学校において「いじめがないはない」という考えに共感する。いじめに対応できる学級づくりが大切だということもよく分かった。 | |
| ・地域でも児童にどんどん声をかけてほしい。地域があつてこそその家庭や学校なので、地域に育ててもらっているということを保護者に伝えていく必要がある。「知・徳・体」の中で「徳」を大切にしていきたいと考えている。 | |
| 【重点目標3について】 | |
| ・体力調査の結果が興味深い。握力、ソフトボール投げの結果が全体的に低い。2つとも以前から課題である。克服する取組は、有馬小は以前からやっていた。授業の初めに、毎回同じ運動を繰り返すことで力が身に付いたり、幼稚園からの継続した取組で成果を上げたりすることができるのではないかな。学校全体で課題の共通理解を図り、継続して身に付けさせていってほしい。 | |
| 2 今後の改善に向けた意見 | |
| ・タブレット端末を毎日持って帰らせているのであるならば、活用方法をもっと考えていく必要がある。 | |
| ・デジタル図書を導入することで、タブレット端末を活用することにもなるし、読書に親しみをもつことにも繋がるのではないかな。今は、絵なども入って、読書が苦手な子で入りやすいデジタル図書がたくさんある。 | |
| ・他にも、学校と保護者の意識で乖離が見られるアンケート項目は、来年度の重点課題としていく。 | |
| 3 その他の意見 | |
| ・3学期から時程が変わって、「遅刻が減った、掃除を一生懸命するようになった、下校が早くなった」など様々な変化があったようで、とてもよい改善だと思う。 | |
| ・来年度、150周年だが、子供たちにも教員にも思い出に残る周年になるとよい。そして地域も一緒に楽しむことが、みんなで育んでいくことに繋がると思う。 | |